

おれんじニュース

No274

2013年1月号



賀正

12月2日、朝から雨のなか飯岳にあそぶ。火口の湿原歩きはまるで尾瀬のようだった。

★ 会員一人一人が運営委員です。みんなでオレンジHCの運営に参加しましょう。

★集会・委員会のお知らせ★ 山行の一步は集会参加から				
	2013年1月	2013年2月	時 間	場 所
運営委員会	9日(水)	13日(水)	19:00~21:30	西諫早公民館
ひまわり集会	11日(金)	1日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館
全体集会	23日(水)	27日(水)	19:00~21:30	西諫早公民館



謹賀新年



写真↑巨大ヒメシヤラを求めて多良岳へ

← 書 下釜さん



2013/1月の山行



部	山行部	ひまわり山行部	技術研修部	自然保護部
月・日	13(日)	18(金)	27(日)	30(水)
山名 (行事)	八郎岳・熊が峰	八十八カ所めぐり久山・津水	三郡山&難所ヶ滝	郡岳
地 図	長崎西南部・肥前高嶋	諫早	太宰府	諫早・大村
集合時間	諫早駅裏 8:00 西諫早駅 8:10	西諫早駅 8:00	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	西諫早駅 8:00
難易度	やや健脚	健脚な歩き	健脚 or ゆっくり班	初級
帰着時間	16:00	16:30	19:00	16:30
歩行時間	4.0~4.5h	5.0~6.0h	5.0 or 3.0h	3.0h
交通手段	マイクロバス	歩き	マイクロバス	マイカー
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温泉	無し	無し	都久志の湯	無し
参加費	2500円	無し	5000円	1000円
申込期限	定員になり次第	随時	定員になり次第	定員になり次第
集 約	田中	林	佐原	中村
備 考	鎮西八郎為朝に由来すると言われる展望の良い山	身近な場所をてくてく歩きます。お願い事しましよ。	幻の滝が凍っていても、凍って無くても初めてのコースはワクワクドキドキ	多良山地の西端に位置し野岳湖から眺める秀麗な山容
感想文提出	1/23	1/28	2/7	2/10

↑
 偵察後、場所
 変更です。氷曝
 見学は変わりなし

初日の出参拝登山

1月1日 御館山展望所 7:00 集合
 お酒おつまみ各自、持参すること。
 今年の山行の安全を祈ります。



2012. 1. 1 御館山

2013/2月の山行



部	山行部	技術研修部	ひまわり山行部	自然保護部
月・日	3日(日)	17日(日)	22日(金)	26日(火)
山名 (行事)	雲仙新道	金敷城山(425.5m) 巨石パーク 有田蓮華石山	日岳	長崎街道 (永昌~大村)
地 図	雲仙・南島原	広滝・佐賀北部	諫早	
集合場所	西諫早駅 8:00	西諫早駅 8:00	ふれあい会館 9:00	諫早駅裏 9:00
難易度	初級	初級	初級	初級
帰着時間	17:00	17:00	17:00	16:00
歩行時間	5.0h	3.5h	4.0h	5.0h
交通手段	マイクロバス	マイクロバス	往復歩きです	往(歩き) 復(交通手段自由)
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	有り	有り	無し	無し
参加費	3000円		無し	交通費のみ
申込期限	定員になり次第	定員になり次第	随時	随時
集 約	田中	佐原	林	中村
備 考	霧氷沢の霧氷を 見に行きます	地頭石、屏風岩など 神秘的な雰囲気 を味わう	歩数かせぎます	いよいよ街道歩きの 始まりです
感想文提出	2/13	2/27	3/2	3/6

※ 県連登山学校 ※

大山 冬山技術講習会 参加者募集

日程 2013年2月8日(夜)~11日

○冬山登山コース

○冬山を楽しむコース

宿泊はビジネスホテル&テント泊も可

帰りに足立美術館見学予定

申込み問い合わせ(川原)



2012.2.11 大山にて

2012年11月/12月の山行報告



11月12～13日久住山行

(参加者) 中須賀、鎗水、福岡、下釜、山口、林、金丸、山下、中村、(外)本田 (10名)

(12日行程) 6:20諫早駅裏/:30西諫早～8:30九重IC～9:30/:45牧ノ戸峠～11:45/12:15久住分れ

A班：～12:45/12:50久住山～13:50/14:00中岳～白口岳14:55/15:00～16:00鉾立峠
～16:30法華院温泉小屋

B班：9:30/:45牧ノ戸峠～12:10/久住分かれ(昼食)～14:30北千里ヶ浜諏蛾守分岐
～16:00法華院温泉小屋

(13日行程)

A班：7:30法華院温泉小屋～9:40段原～大船山(省略)～10:30大戸越～11:00/11:15分岐
～11:55林道出会～13:15吉部登山口

B班：8:00 法華院温泉小屋～9:30 鉾立峠～11:00 暮雨の滝～12:45 吉部登山口
～13:30/15:00 長者原(昼食、入浴)～18:30 西諫早

(感想) 西諫早駅 6:30、10人乗りのワゴン車で出発。後部座席が、お見合い席になっており、顔を見合わせて座る。ちょっぴり照れくさい。高速道路を九重で下りて紅葉が美しい九酔溪を通過して牧ノ戸峠へ。

B班、福岡、山口、中村、林の4名で10時出発。曇り空で風も強く寒い。沓掛山から見た山の頂上は白い化粧をしていました。西千里浜に差し掛かる頃には雲が取れ日が差して来て暖かくなって気持ち良くなりました。久住別れで昼食をとる。平日にしては登山者も多く、若い人も意外と多く、山ガールに見とれてしまう。避難小屋の横には様式の立派なトイレが出来ていました。管理が大変だろうと思った。

別れから北千里浜へ向かう。足元が悪いので時間を掛けゆっくり歩く。平治岳、大船山の稜線がくっきり見えるし雲の影が山に映り鮮やかで絵をみているようだった。さる岩も昔のまま。ここで永い休みを取り時間を忘れ自然に親しむ。

法華院への下りは足元が滑りやすいので慎重に歩く。A班が来るまでログハウスで待つ。持ってきた日本酒を少しずつ飲みながら。夕食後、アルコール無しの反省会を行う。21:00就寝。満天の星がきれいだった！。

13日(火)

昨夜の星の効果もなく、今にも雨が降りそうな空模様であった。



9:00、ログハウスを出発。鉾立峠まで行ってみることにした。途中、道の真ん中に中須賀さんが落としたと思われるダウンベスト発見。鉾立峠は風も強く寒いし展望もきかないので早めに下山する。坊がつるへ戻り暮雨の滝コースをとり吉部登山口へ。滝を見た事がない人がいたので滝も見ることにする。昔道が悪い所だったが、木の階段が作ってあってスムーズに行けた。

滝は水量も多かったしこれに紅葉があれば素晴らしかったのに残念だった。このコースの最後のほうは、急坂で木の根が張り出していて危ない道である。雨も降って来たので注意してください。12:50 吉部に到着。A 班を待つて長者原温泉で汗を流し下の食堂でおでん、ビール、肉うどんを食べ満足。九重夢吊り橋に立ち寄り紅葉を確かめ全員怪我もなく 18:00 諫早着。お疲れさまでした。



めったに行かない北大船もルートに

(B 班リーダー福岡 記)

11月15日(木)

多良岳の「ひめしゃら」の大木

(参加者) 山下、川原、福岡、兵庫、小山、松岡、田村、高森、下釜、中村 (10名)

(行程) 西諫早駅 8:30～多良林道駐車場 9:20～ひめしゃらの木 9:55～もみじ展望岩
11:00～下山～もみじ谷 11:40 (女性群帰路)
(男性群) 昼食後、12:30～本多良へ～15:00 下山

(感想) 多良岳の紅葉見物を兼ね、ひめしゃらの大木を見たいと、秋の一日急遽希望者を募り出発。踏み跡が少ない急騰を登る。時々紅葉・黄葉の景色が我々の目を楽しませてくれる。枯れ沢のそば、ガレ場を歩くこと半時間、やっと、大手を広げた妊婦のような大木が我々を迎えてくれた。木肌は薄茶色でスベスベした皮膚が所々剥けたような特長がある。ある人は「孫が出来ますように」と木のおなかを撫でていた。春頃茶花のような花が咲くとの事。再びその時期に来て見たいものだ。もみじ展望岩からの眼下に広がる紅葉に、



歓喜の声が響いていた。下山後、帰宅組と本多良組に別れ解散。本多良組の男性陣は座禅岩、鬼の岩屋の方向へと迎え、秋の多良岳を楽しんで帰られた事だと思う。

(中村 記)

11月16日(金)

琴平岳、鳥甲

(参加者) 小山、川原、兵庫、中野、山下、松尾、川内、林田、山口 (9名)

(感想) 久しぶりの山行。天が味方したかのように晴天。ご無沙汰していたオレンジの皆さんに会えるのが楽しみなような、気恥ずかしいような(いくつになっても)。でも、皆さん、いつものように晴れやかに「いやー、久しぶり」と迎えてくださり、ホッとしました。小山さんのガイドでまずは琴平岳へ。琴平パークは遊具、芝生ともよく整備され、常緑樹と紅葉との絶妙なバランスに日本の秋をしみじみ感じました。その上、大村湾を一望の下に見渡し、少し



だけ雲がかかりだしてかすんだ中に色々な山々がたなびいています。この景色を小山さんは「ぜひ、皆さんに見せたかった。」とのこと。ありがたいかぎりです。1時間ほどゆっくりと公園内を散策して秋を満喫し、いよいよ鳥甲へ。

10時40分鳥甲山頂へ出発。コンクリート道路を少し歩き、すぐに山道に入ります。下を向くと、今落ちたばかりの真っ赤な葉、ちょっと前に落ちた黄色の葉、茶色の葉と落ち葉が敷き詰められています。

そして上を見ると、真っ赤に紅葉した木、黄色の木、そして常緑樹の緑、木の隙間からは青空が、まさに綾錦を思わせる光景を堪能しながら、疲れもなく頂上へ到着しました。帰路も滑らないように注意をし、紅葉に歓声をあげながら下りました。

下山したすぐのところに本格的な野外活動を体験することのできる生活科学研究所がありました。敷地内には大きな川が流れ、イベントホールやレストラン、露天風呂などの木造の建物があります。シーズンオフのため人影は見当たりませんが、偶然、管理人さんにお会いし、イベントホールで明日から開催する富田一彦の作品が展示されているから是非見ていくようにとすすめられました。「富田一彦とは誰だ？」との疑問に答えるために登山靴を脱ぎました。ホールには富田さんがイタリアで修行し、デザインされた、湯のみ、弁当箱、皿、南部鉄を使った鉄瓶などの日用品からソファ、カーテンなどが興味をそそるように上手に配置されています。イタリア的な斬新さと和風も兼ね備えた作品で、名づけてトミタリアンとか。ちょっとのつもりが、つつい見入ってしまいました。

今日の山行は秋を満喫し、文化の香りをかぎ、そしてオレンジの皆さんとおしゃべりをし、とにかく楽しいものでした。

(中野 記)

12月1日(土)～2日(日)

霧島山系・高千穂ヶ峰(1574m)・大浪池(1411m)・甕岳(1301m)

(参加者) 川原、松岡、下釜、山口、田中(静)、高森、鎗水、佐原、岩田、金丸、中須賀、兵庫、福岡、中野、本田、円能寺、國分、外(松元、和田) 20名

(行程) 12/1 大浪池コース 福岡、岩田、兵庫、中須賀、佐原、國分
11:35 大浪池登山口発→12:15 大浪池展望地—昼食—12:45 渕回り開始
→13:45 韓国鞍部→14:45 大浪池展望地→15:20 大浪池登山口着

(大浪池感想 1) 当初は2日目の予定のコースだったが、お天気の具合がよろしくないとの情報で1日目にメイン登山を行う事になり大浪池コースと高千穂ヶ峰コースに分かれてとなりました。九州自動車道のえびのICを経てえびの高原を目指す。えびのレストハウスあたりで鹿児島からの参加の松元氏と合流し、そのまま大浪池登山口で周回コース参加者のみ下車し、バスは高千穂河原へ走って行った。大浪池は30分位で展望所まで行けてファミリーも多い。その為か道が良く整備されていて歩き易い。我々も40分足らずで登り着いた。早速、風を避けて岩陰で昼食をとった。

池は時計回りで一周する事になり、まずえびの高原側を歩く。稜線歩きと同じなので風当たりが強く寒い。昨夜の霜柱がのこっている。

歩きながら眼下の大浪池の全容が展望できる。大浪池の内側の木々は葉を落としもう冬枯れ状態だった。紅葉には遅かった。

道は韓国岳との鞍部が近くなると池渕回りから下りる事になり、えびの高原からの道と合流しこの鞍部が三差路になっている。この鞍部には、これまた立派な避難小屋が建て直されていた。ここから登り直しとなりだんだんと新燃岳、高千穂ヶ峰方面が見えてくる。何も遮るものもなく獅子戸岳から、新燃岳、高千穂ヶ峰へと山の連なりが広がる。

新燃岳は爆発以来初めて見た。山容の変化は感じられなかったが、あのエメラルドグリーンの池の水は見られないのかなーと残念な思いがした。

ここで高千穂ヶ峰組とトランシーバー交信を行うと繋がった。

静かな湖面を眺めながら渕歩きで一周しながら白鳥山、甕岳、韓国岳から獅子戸岳、新燃岳に高千穂ヶ峰を遠望しずっと楽しむ事ができた。

登山口に到着すると高千穂組はすでに下山してるとの事であわただしくバスに乗り込んで今夜の宿泊先に一足先に到着となりました。(國分 記)

(感想 2) “はじめての登頂、胸膨らませて”

諫早駅裏ロータリーからマイクロバスに乗る。

高千穂ヶ峰、霧島温泉、日向小林、韓国岳と初めての山ばかり。私は高千穂ヶ峰は断念することになりましたが、二日目甕岳には登る事ができました。朝から雨が降ってて少々不安でした。雨具が不備だった為に山下さんにはとても迷惑をかけてしまいました。でも雨の時はどのような品がいるとか心の準備等も良くわかった気がしました。次に登る時は皆様に少しでも迷惑

をお掛けしないように心がけたいものです。今後ともよろしくおねがいます。(本田 記)

(高千穂コース感想) 10年近く前韓国岳に登った時、遠くに見える山がとてもきれいで印象に残っていました。高千穂峰だと分かってからいつか是非登りたいと思っていましたのでその願いが今回叶い本当に嬉しかったです。

天気予報では2日は雨となっていたので心配してましたが予定変更で初日(1日)に高千穂ヶ峰に登る事になりました。大浪池周回コースのグループと途中の道で別れ、高千穂河原公園へ。昼食を済ませ12:00にスタート。ここからは鹿児島島の松元氏が合流され案内をお願いしました。林の中を少し歩いたら後はひたすら登りです。段々砂地になり「三步進んで二歩下がる」って感じでとても歩きにくかった。山頂を極めた山ガール山ボーイが続々下って来ます。ひと山越えて愈々高千穂峰へ、目を前方にやるとバームクーヘンの様な何層もの土?岩?肌、その芸術的模様感動しました。遠くから見るとなだらかなスロープに見えるのですが砂地に足もとをとられ大変でした。やっと頂上に「逆錐」が見えた時はホットしました。それぞれ写真をとります。上りと逆で「サクサク」と靴音をたて乍ら気持ち良い位スピードが出ます。



靴の中に砂も入りましたが、おかまいなし。おかげで上り2時間が下りは1時間で公園駐車場に着きました。宿泊所の「みやま荘」。白濁のイオウ泉ではいやされました。部屋の窓からは草を食べてる鹿が何頭も見られました。食事がすみ、二次会が4人部屋で始まりました。

宮崎の和田さんも参加されて20名で部屋はぎゅうぎゅう。急遽「スナックちずこ」がオープンし飲んで、食べて、しゃべって、笑って、大賑わいです。

川原氏の数々の体験話、中須賀氏の前置きの長い歌にうなずいたり大笑いしたり、とっても楽しい時間でした。

2日は天気予報より早く雨になり雨具装着で甕岳を目指して8:30出発。しばらくはフラットな道が続き赤松の木が多かったので「マツタケはないかな」と話しながら歩きました。約1時間で山頂へ着きましたがガスが出てたので眺望は残念乍ら……。松元氏の案内で火口湿原巡り。

想像より広くてびっくりしました。「霧島の尾瀬」といわれてるとか。今は枯れ草で

おおわれていますが新緑の頃はまた、とても素晴らしいのでしょう。改めて行きたいですね。

湿原を半周して出発地に戻りました。松元氏のお陰で楽しいコースを体験できました。感謝です。松元氏とはここでお別れして、時間があつたので川原氏の発案で願い事が一つ叶うとい



甕岳 1301m松元氏の案内で火口も歩く

う神社や、コカコーラえびの工場を見学しました。白鳥岳や韓国岳に登れなかったのは心残りですが又の楽しみにしましょう。登る時の辛さは頂上に着いたら喜びに変わり、下山すると又行きたいという思いになります。来年も元気で一つでも多くの山に出会えたらと思います。

いつも楽しい山行を計画実行して下さる各部会の皆様有難うございます。来年もどうぞ宜しくお願いいたします。
(高森 記)

12月10日(月)

忘年会

<参加者> 福岡、中須賀、鎗水、松尾、松岡、兵庫、佐原、山下、川内、岩永、林、田中(ひ)、田中(し)、山口、山本、金丸(な)、林田、高森、本田(19名)



今年の忘年会は当初参加者が非常に少ないと心配されていたが、男性6名、女性13名の参加があり居酒屋「一気」で開催された。

福岡会長の「今年の山行もあと2回を残すのみとなりました。今年も色々変化に富んだ山行が計画され楽しく過ごすことが出来ました。特に白峰三山縦走と槍穂縦走は南北アルプスの最高峰に挑戦し、成功したことで自信を深めたと思います。またここ数年減少を続けている会員数も、ボツボツと新会員の加入も見られるようになり喜ばしいことです。来年も安全で楽しい山行が出来るよう頑張りましょう」との挨拶の後、宴会に入る。

たくさんの料理と飲み放題のアルコールで各テーブルごとにいろいろと話が弾む。



さらに「クラブちず子」のマダムが得意のオシャベリで座を盛り上げてくれる。

新会員や会員歴は長いがあまり山行に参加できない会員のスピーチで、会員の親睦を一層密にする。最後に来年一番行きたい山を一人一人発表して、アットいう間に楽しい2時間が過ぎた。

来年一番行きたい山として加賀の白山、屋久島が最も多く、東北の山も出されました。是非達成できるように頑張りましょう。
(兵庫 記)



晩秋と初冬の交錯する久住連山(11/12,13)



九酔溪
の紅葉



11月13日久住・吉部への林道でひろい集めた
ような紅葉・写真提供・中須賀氏



山は
霧氷



霧島連山忘年登山(12/1,2)

高千穂峰にワンちゃんと登っていた人。ルートを外して下山してる人に注意してた。偉い！



高千穂河原でストレッチ



火口淵、後ろは高千穂峰



甌岳の回りをぐるっと半周？



最後の急登



ココア工場で時間調整



高千穂峰より韓国岳方面



高千穂峰の頂上

	おれんじニュースNo274
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2012. 12. 26
財政担当	
郵便振替口座	
ホームページ	http://orangehikingclub.web.fc2.com/

今年も終わろうとしています。
この一年間ニュースの記事ではお世話になりました。
また来年もよろしくおねがいします。
皆さま、良いお年をお迎えください。
山下ちず子